

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております

## 2651号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 4767

<http://www.zck.or.jp>

流鏑馬(埼玉県毛呂山町)



随 想	情 報	フ ォ ー ラ ム	政 策
--------	--------	-----------------------	--------

名水の恵み

町村Navi

地域住民による集落活性化への挑戦「森の巣箱」で甦った床鍋集落

2008年版厚生労働白書

雇用対策や子育て支援などの現役世代を対象とした施策に注力

島根県海士町長

山内

道雄

(11)

(9)

(5)

(2)

### 写真キャプション

埼玉県毛呂山町の出雲伊波比神社で、春と秋に行われる流鏑馬神事。康平6年(1063年)源頼義・義家父子が奥州平定のため戦勝を祈願し、見事凱旋の折に奉納したのが起源とされる。烏帽子に直垂姿の騎馬武者が馬を駆けさせ射的する勇姿に、観客からは大きな歓声と拍手が沸き起こる。

### 閑話

## 世界は多彩、日本は単調か

ジャーナリスト 松本 克夫

北京五輪開会式の延々と続く入場行進を見ながら、世界は多彩になったという感を深くした。子供のころ習った地理では、アフリカはイギリス領、フランス領などの植民地ばかりで、独立国は十指にも満たなかったはずだ。中米・カリブ海も、なじみの薄い国・地域が増えた。旧ソ連の解体の影響も大きい。

子供たちが地理に弱くなったといわれるが、大人だって二百四の参加国・地域名を半分以上挙げられる人は少ないに違いない。「今、世界は」などと講釈を並べる御仁も、念頭にあるのはほんの二十か三十の国で、多くの国・地域は置き去りにしている。極端な場合、世界といってもアメリカしか頭にない議論もある。

試しに、入場行進のビデオを見ながら、世界地図を広げて、次々と入場する国・地域の位置を指で差してみるといい。世界の多彩さを体感できよう。子供たちだったら、ゲーム感覚で一生消えない世界を頭に刻みつけることができるだろう。

入場行進で印象的だったのは、大国の千人を超える大選手団よりむしろ、数人しかない小国・地域の選手団が、存在を誇示するかのようにならないうえ、にこやかに歩く姿だった。競技でも存在感を示した小国・地域は少なくない。陸上競技で旋風を巻き起こしたジャマイカは、人口は広島県、面積は秋田県並みの小国である。

大から小までいろいろあって、世界は楽しい。日本の地域や自治体も、いろいろであっていいのだと意を強くした。しかし、多彩さを許さない風潮は強まる。例えば、道州制導入に伴い、市町村を一定規模以上にそろえるという案である。もともと均質化を追求するのは近代の思考の特徴で、科学もその成果の一つだが、それを種々雑多な地域に当てはめると、どうも具合が悪い。自治体の規模をそろえたいというのは、よくいえば制度の美学、悪くいえば偏執狂である。世界は多彩、日本は単調であっていいはずがない。

## 雇用対策や子育て支援などの

## 現役世代を対象とした施策に注力

厚生労働省は2008年版厚生労働白書をまとめ、公表した。少子高齢化に伴う人口減少社会を見据え、高齢者関係の施策と併せて雇用対策や子育て支援などの「現役世代を対象とした施策に力を注ぐことが必要」とした。また、就労・所得確保の環境整備で国民1人1人が「自立」するとともに、社会全体で「支え合う」社会保障について、信頼される仕組みとするための議論が必要だと示した。一方、批判が相次いだ年金記録漏れ問題への反省も盛り込んだ。

白書は、少子高齢化に伴う人口減少で、高齢化率が30年には31・8%、55年には40・5%を超える見込みだと紹介。単独世帯も増え、30年には世帯主65歳以上世帯で37・7%を占めるため、「社会的リスクに弱く、地域社会の維持が難しい」と警鐘を鳴らし、「社会経済の持続可能性を揺

るがす懸念が生じている」と指摘した。さらに結婚や出産について、未婚者の9割以上が結婚を希望し、子ども2人以上を持ちたいとする国民の願望が、現実と大きく乖離（かいり）していると分析する。

この乖離の原因については、個人の価値観が多様化する中で、「希望

を実現する選択肢が拡大しなかった結果と見ることもできる」と述べている。選択肢の拡大に向けては「働き方の見直しによる仕事と生活の調和の実現」、「包括的な次世代育成支援の枠組みの構築」が必要だとした。これらの取り組みにより、仮に結婚と出産の願望が実現したとすると、55年の合計特殊出生率は1・26から1・75に上昇するという。

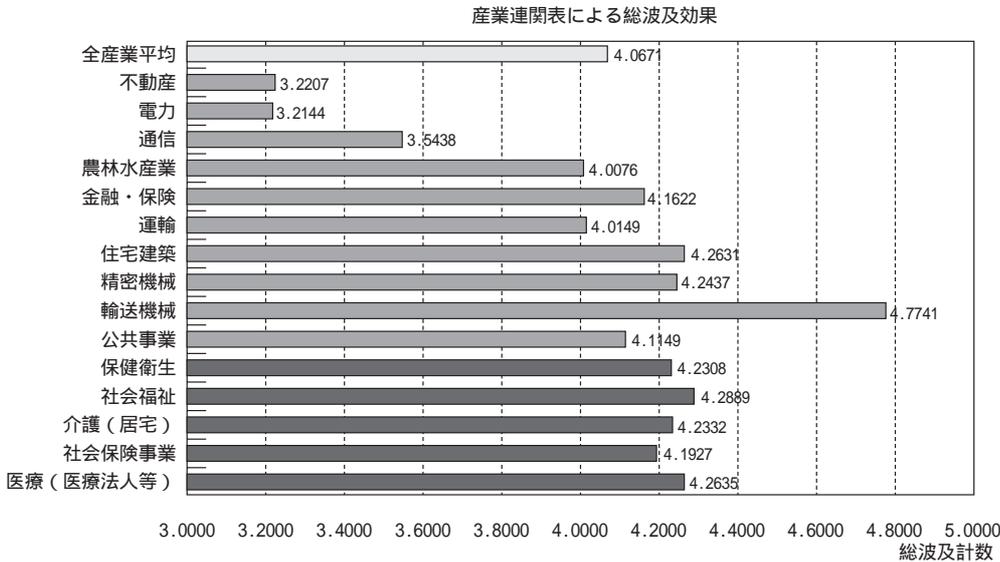
働き方に関し、現在の労働環境の課題には、若年層の非正規雇用が増加している。25・34歳の「年長フリーター」は状況の改善が他の年齢層に遅れている。子育て世代に当たる30・40歳代の男性の労働時間が長い。働いている女性が出産を機に離職する割合が多い。などを挙げる。これに対しては、若年層をはじめとする雇用安定策への取り組みとして、「フリーター常用雇用化プラン」

や「ジョブカード制度」のほか、パートタイム法の改正などを紹介。派遣労働に関する問題も現在、同省の研究会で改善策を検討しているとし、パートタイム労働者を厚生年金・健康保険の対象とする法案提出の動きなどの支援状況を報告している。さらに今後、最低賃金の中長期的な引き上げに関して産業政策と雇用政策の一体運用を図り、「仕事と生活の調和」(ワーク・ライフ・バランス)への社会全体での取り組みを推進するとした。

一方、次世代育成支援では、待機児童の解消や放課後児童クラブの質・量の確保を求める。保育所の定員は06年度から07年度で3万人増えたものの、待機児童は2000人しか減っていない。待機児童を減らすには、社会保障審議会(厚労相の諮問機関)少子化対策特別部会がまと

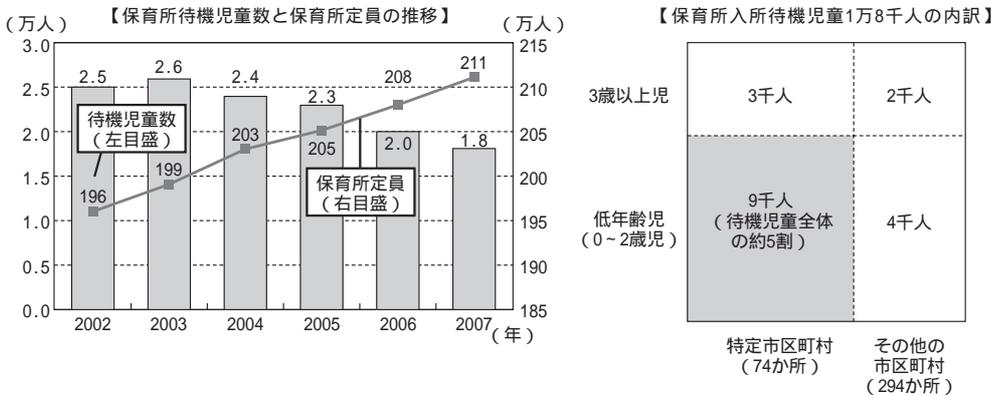
政 策

表1 社会保障分野の総波及効果



資料：財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構「医療と福祉の産業連関に関する分析研究報告書」（2004年）より、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室作成。

表2 保育所待機児童の現状



資料：厚生労働省雇用均等・児童家庭局調べ。

めた報告書に基づき、(1)質を確保したサービスの量的拡大(2)「保育に欠ける」とした要件や契約制度導入など利用の在り方・について、今後見直すとした方向性を示した。さらに財源に関して、必要な費用は「次世代の負担とすることなく、

社会全体の負担・拠出により支える制度設計を直ちに着手し、進めることが必要」とした。年金などの社会保障制度のプラス面にも言及している。モノやサービスなどに対する需要の増加が所得の増加などをもたらす「総波及効果」

をみると、介護ビジネスなどの社会保障関連産業で高いと分析。波及効果は全産業の平均値を上回り、「住宅建築」や「精密機械」といった産業分野と肩を並べる水準にあるという。さらにサービスなどへの需要の増加が、直接・間接的に労働需要を

もたらす「雇用誘発係数」についても、社会保障分野は主要産業を回っている。このため、高齢化の進展で社会保障分野の需要拡大がさらに見込まれ、「新たな雇用創出が期待できる」としている。こつした経済効果を背景に、社会保障制度は単なるセーフティネットに留まらず、「経済発展を支えるためにも重要」だと強調。社会保険料負担の増加で、個人や企業の可処分所得が減少して「経済成長にマイナス」とする意見をあえて記載し、それに反論する形となっている。地域社会への影響は、県民所得に占める公的年金の割合が増加しており、全国の合計では、1996年の6.3%から2005年には10.1%に膨らんでいる。白書は「地域における高齢者の生活に果たす年金の役割は増大している」と意義をアピールすると同時に、地域ブロック別にみると所得再分配効果が生じていると紹介。高齢化率の低い地域では再分配係数が全国平均より低く、高齢化率の高い地域ではおおむね高い傾向がみられるという。社会保障に関する国民意識の調査では、今後最も充実させるべき社会保障分野は「育児支援」とする結果も盛り込んだ。調査は、無作為に抽

表3 社会保障の分野のうち重要と考えるものと今後充実させるべきと考えるもの

重要と考える社会保障の分野(複数回答)

(%)

	老後の所得 保障(年金)	老人医療や 介護	的な少子化 策(など)	育乳児 育支 援	医療、総 合	医療保 険	健康の保 持・促進 な	障害者福 祉	生活保 護	雇用の確 保 や失業 対策	その他	わからない	不祥
総数	72.0	56.6	34.1	37.4	19.2	8.8	9.9	20.8	0.8	4.4	3.3		
20～29歳	60.7	41.6	52.3	35.1	15.9	8.9	13.1	26.1	0.9	7.3	2.7		
30～39歳	65.5	45.8	50.6	37.6	15.1	8.9	9.5	27.2	1.3	4.2	2.2		
40～49歳	71.8	55.6	38.2	38.3	17.8	9.2	10.2	29.0	0.8	3.3	1.8		
50～59歳	75.0	57.7	30.5	38.6	20.4	8.6	8.6	25.7	0.6	3.1	3.0		
60～69歳	79.6	64.9	26.9	35.7	22.4	8.5	11.3	15.3	0.6	3.5	3.0		
70歳以上	74.8	66.6	17.4	37.9	21.7	8.7	8.3	6.8	1.0	5.5	6.0		

今後更に充実させるべきと考える社会保障の分野(複数回答)

(%)

	老後の所得 保障(年金)	老人医療や 介護	的な少子化 策(など)	育乳児 育支 援	医療、総 合	医療保 険	健康の保 持・促進 な	障害者福 祉	生活保 護	雇用の確 保 や失業 対策	その他	わからない	不祥
総数	35.2	36.5	42.7	34.1	26.3	18.8	14.0	34.0	1.3	7.2	5.4		
20～29歳	40.3	34.8	47.5	31.6	20.3	17.2	17.3	32.1	1.2	9.5	3.8		
30～39歳	41.4	37.9	48.0	33.8	20.4	18.8	13.9	33.1	1.5	6.9	3.3		
40～49歳	38.7	41.0	44.7	35.8	23.2	19.5	13.2	39.0	1.4	5.5	3.5		
50～59歳	34.5	37.6	44.9	35.1	26.8	20.4	13.6	39.4	1.5	4.7	4.2		
60～69歳	31.8	35.5	42.3	35.7	32.3	19.0	15.1	35.6	1.4	5.9	5.1		
70歳以上	28.6	33.0	32.6	32.3	31.0	17.4	12.2	25.7	1.0	10.7	10.6		

資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室「高齢期における社会保障に関する意識等調査」(2006年)

出した一定地域の世帯を対象に行ったもので、20歳以上の男女約1万1000人分を集計。育児支援への関心は高齢者を含めて高く、世代別でみると20・60代でトップ。70代でも2番目に多かった。全体での2番目に降は「老人医療や介護」(36.5%)、「老後の所得保障(年金)」(35.2%)が続いた。

一方、社会保障費の給付と負担についての質問では、「負担増はやむを得ない」とした回答が35.2%だった。「給付水準の引き下げはやむを得ない」は8.0%にとどまった。

将来的な社会保障制度については、高齢化率の上昇で「給付と負担が増大していくのは避けられない状況」とし、保険料や税による国民の負担増に言及。世代間の公平性や、所得に応じたきめ細かな負担などに配慮した上で、「将来にわたり信頼される社会保障を構築するための議論が重要」とした。

また、強い批判を浴びた社会保険庁の年金記録漏れ問題については「真摯(しんし)に反省」とした上で、「あらゆる手段を尽くして最後まで最大の努力を行う。国民の信頼回復に全力を挙げて取り組む」と明記した。

08年度にスタートし、混乱と批判を招いた後期高齢者医療制度(長寿医療制度)については、「75歳以上の高齢者の医療を現役世代と高齢者でともに支え合う仕組み」と説明。「制度の趣旨・必要性を懇切丁寧に説明し、ご理解をいただく努力を重ねていく必要がある」と述べるにとどめた。

このほか、平均寿命の伸長で、「人生85年時代」が到来しつつあるとして、生き方や働き方のモデルの見直しが必要と指摘。舛添要一厚労相が立ち上げた有識者懇談会が08年5月にまとめた報告書から、生き方・働き方の課題解決のため、「長期休暇制度の普及・定着の取り組みを進めるべき」と提示。これにより、「人生85年時代を息切れすることなく走り続けるための充電機会となる」とことに加え、「広い視野に立った仕事を通じ、高い生産性を発揮することも期待される」としている。

フォーラム

現 地 レ ポ ー ト

町村独自のまちづくり

地域住民による集落活性化への挑戦  
「森の巣箱」で甦った床鍋集落



はじめに

不入溪谷の蒼むした岩間に湧き出した清水が生き物のように原生林の間を滑り落ち、やがて小さなせせらぎとなり、源流の人々の命を育み、流域に様々な恵みを与えながら大河へと姿を変えて太平洋へと流れ出る最後の清流 四万十川。(旧東津野村)

不入山に並び立つ鶴松森つるしょうもりに源を発し、天然記念物のニホンカワウソが日本です最後に生体確認された、澄み切つ

集落が消滅する！

床鍋集落は、津野町の中心部からも、また周辺地域からも急峻な山に遮られ、辺地地区にも指定されている山間の小さな集落です。

この地区は、かつては山景気に沸き、小中学校も存在する活気のある地域でしたが、時代とともに過疎化・高齢化が進み、集落機能の維持さえ危ぶまれる状況でした。

た清流新莊川。(旧葉山村)

それぞれに「最後の清流」を有する2村が平成17年2月1日に合併し、津野町が誕生しました。

津野町は、高知県の中西部に位置し、面積198・22km<sup>2</sup>で、人口6、862人。総面積の約9割は森林で占められる典型的な中山間地域であり、西北部には日本三大カルストのひとつ「四国カルスト・天狗高原」を有する自然豊かな町です。

高知県 津野町



森の巣箱全景

フォーラム



ニホンカワウソが確認された清流新莊川

「このままでは、集落が消滅する。地域の活性化に取り組みたいが何から手をつけていいかわからないから行政支援ができないか」という申し入れがありました。  
このときに、行政が提示した「条件」が、『主人公は集落であり、集落全体が汗をかくこと。そしてその責任は集落代表者でも行政でもなく、集落全体の責任である。その間、行政としてはサ

ポートに徹する。』というものでした。このような合意に基づき、集落と行政による二人三脚の集落活性化がスタートしました。

芽生えた「自信」

活性化会議がスタートし、「何ができるかわからないが何かをやってみよう」ということになりました。

この「行動」を選択した背景には床鍋地区の実情がありました。同地区は隔絶された地域性から行政サービスにも格差が生じており、少なからず行政に対する不信感があったほか、地域全体に無気力感といったような雰囲気漂い、何かに向かって行動を起すような力強さはなかったのです。

最初のうちは、地域づくりを意識しすぎた大型イベントであったり、多額の経費が予想されるハード事業を要するものであったりと、活性化会議での意見は素人集団には荷の重すぎることばかりでしたが、「視点を変えよう!」という声ひ

とつっきかけとなりました。

集落唯一の基幹道路は、転出者が植林をしたり、人工林の価格低迷から地域住民自らが放置したりしてできた「森林トンネル」状態。その結果、空も望めず、清流さえも目にするのができないありさまで、道の先に集落が存在することも想像できない状況でした。その森林を「集落の支障林」と位置付け、伐採する行動を開始したのです。

伐採後、集落は見違えるように明るくなり、広くなった空を見上げながら「すっきりしたね。良くなつたね。」という会話があいさつ代わりになりました。そして、何よりの収穫が、森林所有者の洗い出しから、交渉、伐採までの全ての作業を集落住民の力で完結したことにより自信が芽生え、その年の「夏祭りの復活」へと繋がったことです。その夏祭りでは、久しぶりに里帰りした人々に少しだけ変わり始めた床鍋集落を披露し、満足げに語り合

うリーダー達の姿がありました。



大勢の人で賑わう夏祭り

自信から確信へ!

集落の活性化は第二段階へと進みました。支障林の伐採や夏祭りを毎年続けながら、地域活性化会議はすでに50回を超えました。次の課題は、地域の将来像を描くことです。

この頃、住民たちは床鍋の将来をどうことん考えようと『床鍋とことん会』

## フォーラム

「森の巣箱」の中核機能  
集落生協



居酒屋



を結成し、「この地域には何が足りないのか」地域の誇れるものは何か「自分たちは何がしたいのか、何ができるのか」を探るため、地域を歩き、ワークショップを開催しながら精力的な取り組みを行っていました。

並行して、集落から役場に通じる生活道路の整備活動を展開し、その取り組みが行政を動かし、高知県が国の「ふるさと林道緊急整備事業」の指定を受け、中心部と集落を結ぶ1000メートルのトンネルを含む道路整備をスタートさせました。この道路整備

は、これまで隣接市を迂回し、30分以上要した役場までの時間的距離を一気に8分程度に短縮しました。

このことにより、自らが描く地域の将来像が現実になることを住民一人ひとりが確信し、自分たちのための計画作りに邁進することとなりました。

### やっぱり学校再生！

その後、行政と一体となった活性化会議は100回を超しましたが、その結論は、『床鍋集落の歴史も将来も学

校抜きでは語る事ができない。できる限り現物を残しながら、学校を地域活性化の中核施設に再生する。』というものでした。

### 「森の巣箱」の入学式

施設は、集落を巣立っていった人たちがいつでも気軽に戻れるようにとの思いをこめて、「森の巣箱」と名付けました。

落成セレモニーは、入学式として地域リーダーたちが企画し、大勢の出身者も参加し、盛大に執り行われました。

### 「褒美と検証（課題）」

平成19年度には、全国過疎地域自立活性化優良事例において総務大臣表彰という大きな褒美をいただきました。

作った計画となりました。

また、この事業は長期間にわたって

まれ、宿泊者数、販売目標額共に計画を大きく上回り、運営担当者もうれしい悲鳴を上げながら地域雇用の役割も充分果たしてきました。

この間、訪れる人々とスローな時間を共有し、その交流を縁に、「森の巣箱」で結婚披露宴を行う県外の若者数組が出るなど、新たな「出身者」といえる人々との交流が始まりました。

また、オープン2年目から実施している環境イベント「蛸まつりin巣箱」も1000人を超すイベントに成長するなど、更なる交流拡大へと地域住民が一体となって取り組んでいます。

建設では、設計の段階から地域住民参加を徹底し、設計変更においても住民意向を十分に盛り込んだものとし、この計画は、住民参加型ではなく住民が作った計画となりました。

また、この事業は長期間にわたって

フォーラム

ソフト事業を展開した後にハード事業に移行(ソフト6年、ハード2年)したものです。あくまでも「施設整備ありき」で出発したのではなく、事業を導入できない場合や財政事情によっては「夢」に終わる場合があることを前提に取り組んだため、非常に粘り強い取り組みとなったことも成功の要因と言えるでしょう。その粘り強さが、地域住民の力と責任感に変えられて、「森の巣箱」の運営に生かされています。



森の巣箱の居酒屋での打ちあ

まず第一点として、現状を過信することなく心の交流を大切にし、一度訪れていただいた方々に再度訪れていただく更なる工夫をすることです。現在の巣箱人気はそのシステムや話題性により、メディアの方々による予想以上の情報発信ができている面があるからです。

次に第二点として、原点を再確認することです。巣箱の原点は「集落生協」です。

集落全員が経営者であると同時にお客でもあります。大きなスーパーで買物をした場合、1000円の商品は95円で買うことができるかもしれませんが、巣箱では、同じ商品は1000円のままで、集落に25円の利益が落ちます。住民全体で生活用品を買い支えることにより、「森の巣箱」がより長く、元気に運営できるシステムであることを再確認し、実践することが最も重要です。

かつて、集落の消滅を危惧し、無気力感さえあった集落が、住民の活性化への挑戦により、年間3、000人以上の交流を生み、津野町内でも一番元気な集落に生まれ変わりました。ぜひ一度訪れてみてください。

(企画調整課長 高橋 正光)

**信州縦断**  
**元気なふるさと**  
**収穫祭めぐり2008**

8月から12月までの間、長野県町村会が主催して、「信州縦断 元気なふるさと収穫祭めぐり2008」を実施しています。

本年で5年目となるこのキャンペーンは、県内62全町村の参加により、それぞれの町村が地域住民と協働で行う収穫祭、農業祭、物産展、産業祭等を県内外へ情報発信することにより、多くの人々を信州に呼び、地元の農林産物、特産品等の紹介・販売や、人々との交流を通じて、それぞれの町村の「元気」と「よさ」を広くアピール

する環境づくりを行うことを目的としています。

「点」である一つの町村の収穫祭が、「線」となつて地域圏の町村に繋がり、またこの「線」が62町村に繋がることにより、長野県全体の町村が「面」となり、信州全体が大イベント会場に変化します。ぜひ、それぞれの町村に出向き応援してください。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。  
 (長野県町村会・電話026・234・3530)



ホームページ  
<http://machimura-nagano.jp/furusato2008/>

情 報



町村Navigationコーナーでは掲載情報を募集しています。  
掲載をご希望の場合は全国町村会広報部  
(TEL03-3581-0486)まで

**宮城県 宿宮七ヶ**  
住民と協働の地域づくりにへ交付金

町は今年度から、「元気な地域づくり交付金事業」を始めた。同事業は、地域が自ら考えて行う地域づくり活動を支援し、住民との協働でまちづくりを推進するもので、各集落のコミュニティ活動を促し、地域住民が安心して生活できるよう、各地区に財政支援を行う。

町では、地域住民が積極的に参加して「地域づくり委員会」を町内7地区で組織。同委員会を中心に、各地区で地域の課題や将来像などを話し合っており、「元気な地域づくり計画」の作成や事業実施などを行う。また、町の職員を地区ごとに配置し、先進事例の紹介や情報の収集・提供、計画立案などで委員会を補佐する。

今年度は、各地区での計画書作成が目標。来年度以降、計画書をもとにその年ごとの活動計画を立てて取り組んでいく。町内ではこれまでも、各家庭や施設に花の苗を配る「花いっぱい運動」などのコミュニティ事業が行われている。今年度、各地区には5万9,000〜22万円の交付金を交付する予定だ。

**東京都 東三宅**  
「地方の元気再生事業」に選定

村は、政府が今年度から創設した「地方の元気再生事業」に選定された。同事業は「地域再生戦略」の柱で、自治体などの提案を受け、地方再生の取組みを立ち上げ段階から包括的・総合的に支援するもの。

5月から約2週間の募集で、1、186件に上の提案があり、村など120件が選定された。分野別では、農林水産業や地域産業、観光交流等が選定案件の6割を、地域別では、農山漁村や基礎条件の厳しい地域が6割をそれぞれ占めた。

村は、三宅島の火山灰など「未利用資源」を保存の利く高付加価値製品「灰干し」として商品化するとともに、全国への販売ルートを開拓。離島の生産ネットワークを構築し、消費地からの距離など不利条件を克服する地域連携ビジネスモデルを確立する。

08年度は火山灰を岡山の笠岡諸島で加工し、山形の飛鳥も含め3島に分配。各地の未利用鮮魚を活用した灰干し商品化ネットワークを試行する。

政府は来年の3月ごろ、各事業の実施状況を調査・評価し結果を公表する方針。

**大阪府 大熊町**  
「ごみゼロ推進員を設置」

町は、地域ぐるみで「ごみ減量化」と「リサイクル」を進めるため、「ごみゼロ推進員制度」を設け、各自治会からの推薦に基づき46人に委嘱した。

町では2009年4月から、可燃ごみの有料化（指定袋制）と資源ごみの分別拡大（プラスチック製容器包装）をスタートさせる。このため、同推進員を設置した。今後、推進員は「ごみの減量化・リサイクル」の地域ボランティアリーダーとして、町の施策（可燃ごみの有料化）やごみ問題に関する自治会と町との連絡役、地域における「ごみ減量化・リサイクル」の普及・啓発、「ごみの減量化・リサイクル」に関する自主活動の推進、などの役割を担ってもらう。町では、推進員の活動交付金として推進員1人当たり1万円（年）を各自治会に交付する。

家庭から出た町のごみ量は約1万1千トンあるが、町の焼却施設は老朽化、近畿圏の埋め立て地も10年後には満杯に。このため町のごみ減量化計画では13年度までに5%削減を掲げている。

**兵庫県 泉**  
燃油高騰で漁業者に融資制度

町はこのほど、燃油の高騰を受けて、町内漁船漁業者の操業を支援する独自の融資制度を創設した。こうした融資制度は県内初という。

制度は融資と利子補給の二段階。要綱によると、融資は目標額を7、500万円とし、県信用漁業協同組合連合会に1、500万円を預託。融資対象者は浜坂町漁業協同組合所属で、町税を完納していることなどを条件とした。

**熊本県 本水**  
里山暮らし・体験観光でパンフ作成

町では、民家で過ごしたり田植えやわらし作りなどの情報を満載した「なごみ里山暮らし・体験観光パンフレット」をこのほど作成した。地域活性化が狙いで、近隣の小中学校にも配布するなど観光客誘致をPRしている。

町は九州縦貫道のインターチェンジがあるなど交通の便が良いうえ、豊かな自然や町の古民家を移設復元した「肥後民家村」など数多くの歴史的資源にめぐまれている。そこで、より多くの観光客を呼び込もうとパンフを作成した。観光客にどっしりした民家で過ごしてもらったり、田植え・草刈り・餅つきのほか、炭焼き、紙すき、わらし作り、こんにやく作りなどの体験観光を取り入れた。「肥後民家村」では木工館・陶芸、ガラス工芸・篠笛講習や酒造見学などもできる。

町では併せて温泉施設や体験観光の利用ごとに一つのスタンプをもらえ、4〜8つ集めるとコマや野菜の詰め合わせセットを贈呈したり、「肥後民家村」をテーマにフォトコンテストも開催する。

# 「地域活性化フォーラム in 宮崎」のご案内

地域活性化センターでは、地域活性化の今日的なテーマを取り上げた地域活性化フォーラムを毎年開催しておりますが、今年度は10月9日(木)宮崎県において『おもてなし』が地域の未来を切り拓く「地域の魅力を高める感動のまちづくりへ」をテーマとして開催いたします。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

### 【概要】

日 時：平成20年10月9日(木)

13時30分～16時50分

会 場：宮崎市民プラザ(宮崎市橋通1-1-2)

定 員：450名(定員になり次第締め切らせていただきます)

入場料：無料

### 【プログラム】

12時30分 開場・受付

13時30分 開会 来賓挨拶

東国原英夫宮崎県知事

13時40分 基調講演

「素晴らしき日本のおもてなし」

タニエル・カール(タレント・俳優)

14時40分 休憩

14時50分

パネルディスカッション

『おもてなし』が地域の未来を切り拓く「地域の魅力を高める感動のまちづくりへ」

### 【コーディネーター】

角谷浩一(ジャーナリスト)

### 【パネリスト】

金子哲雄(流通ジャーナリスト)

黒木定藏(宮崎県西米良村長)

益山代利子(松本大学総合経営学部准教授)

養父信夫(九州のムラへ行こう)編集長)

16時50分 終了

### 【参加対象者】

地方自治体職員、NPO・社団・財団などの非営利組織関係者、地域づくり団体関係者、民間企業、学生、その他一般の方

### 【応募方法】

必要事項(郵便番号、住所、氏名、職業、電話番号)をご記入の上、FAX、メール又はハガキでお申し込み下さい。

### 問合せ・申込先

(財)地域活性化センター

企画部情報サービス課 宮本

〒103-0027

東京都中央区日本橋2-3-4

日本橋プラザビル13階

電 話：03・52202・6135

FAX：03・52202・0755

E mail：forum@jcd.jp

町村週報第2650号、5ページの記事「住民基本台帳人口」のリード部3行目「前年より1、554人減・少」の表記は、「前年より1万2、707人増加」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

## 豊かな生活 住みよい環境をつくる

安全有利な

# 公営企業債券



この債券の発行によって調達した資金は、地方公共団体の経営する公営企業や生活基盤整備等の事業に融資されます。

当公庫は、政府保証国内債、政府保証外債、財投機関債など投資家のニーズに合わせて多様な債券を発行しています。

発行条件や格付情報など詳しくは当公庫ホームページをご覧ください。

【<http://www.jfm.go.jp/> の「投資家の皆様へ」】



公営企業金融公庫

## 随 想

## 随 想

島根県海士町長

山内 道雄

## 名水の恵み



その昔、古代ギリシヤの哲人ターレスが、「水は生命の根源である」と洞察したように、地球上には、酸素を必要としない生物はいないそうです。そして水は三態変化(氷・水・水蒸気)しますが、地表温度が水を液状で保てる範囲にある天体は地球だけだといわれており、この奇跡が地球上に生命を誕生させたといえる

かもしれません。この尊い水は決して無尽ではなく、自然の摂理により、水蒸気から雲、そして雨や雲への循環と再生を繰り返しながら私たちの生活を支えています。

しかし、高度成長時代の負の遺産ともいべき公害の原因となった「有機物質」は著しく減少したものの、有機汚濁などのいわゆる「水の汚れ」の問題が依然として残されていた昭和60年に環境省が選定した「名水百選」は、豊かな生態系を守

り、人と自然が触れあうことのできる水環境を保全していくことが強く求められる中で、全国にある清澄な水を再発見するとともに、それを全国の皆さんに紹介することを目的に選定されました。

そしてこの「昭和の名水百選」に、私も海士町の「天川の水」も認定していただいております。

奈良天平のころ僧行基が隠岐行脚で当地を訪れたとき、うつそうとした木陰の洞窟から流れ出る湧き水に冷気を感じ、ここに一字の堂を建てて聖観世音菩薩をまつり、清水寺と号し、この水を天川(天恵の水)と名付けたと言い伝えられています。

平成18年には「疎水百選」にも選ばれたこの「天川の水」は、水量は約400トン/日で、主に農薬用水として利用されていますが、悠久のときを超え、森閑とした佇まいをいまに残しています。

さて我が町は、離島という地理的特殊性から平成の町村合併のメリツトが見出せず、覚悟の単独町制を選択しました。しかし、平成16年の大幅な地方交付税の削減(所謂、地財シヨック)を受け、島の存続と持続可能なまちづくりを目指し、「守り」の戦略として徹底した行財政改革を断行するとともに、「攻め」の戦略は離島ならではの海の恵みにこだわった産業振興策に積極的に取り組んでいます。これらの事業化に先立ち島内の水質調査を行いました。その結果、最適な数値を示したのが、実は名水「天川の水」がふんだんに流れ込んでいる入り江の沖であったのです。

たとえば、海のミルクといわれる「いわがき」を種苗から育成・販売まで一貫生産を目指し、U・エターナー者と地元漁師が協力して、「隠岐海士のいわがき・春香」の養殖に成功し、春から初夏限定のいわがきとして、築地市場や首都圏のオイスターバーで大ヒットしています。

また、きれいな日本海の海水から伝統的な製法で作られる「天然塩」は、塩そのものは勿論、梅干しや塩辛などの商品化にも積極的に取り組み、山陰地方はもとより、東京の有

名ホテルでも「海士乃塩」として取り扱っていただけのものでなくなり、販路も広がり、いま辺境の島にも改革の光と構造改革が芽吹き、確かな手応えを感じております。

ところで「昭和の名水百選」に認定された私たち関係自治体は、英知と創意を結集し水環境の保護の推進と水質保全意識の高揚を図ることを目的として、全国水環境保全市町村連絡協議会を設立し、今日まで活動を続けてまいりました。そして今年の6月、新たに「平成の名水百選」が選定されたのを機に、昭和と平成の名水が手を携え、さらに協力に水環境保全に取り組むべく、2000の名水が参加する連絡協議会へと発展的に生まれ変わろうとしています。

その嚆矢の全国大会と名水シンポジウム(所謂、名水サミット)を、来年10月に日本海に浮かぶ小さな離島の私も島根県隠岐國海士町で開催することとなりました。

全国の「名水」関係者や水環境保全にご尽力されている方々との交流と親睦の機会をいただき、まさにこれこそ最大の「名水の恵み」と考えっております。

皆様のご参加ご来島を心からお待ち申し上げます。

大きな秋、み~つけた!!



2008年  
新市町村振興宝くじ

オータムジャンボ  
宝くじ

1等・前後賞合わせて  
**2億円**

9月29日(月)発売

**1枚 300円**

売り切れしだい発売終了

1等:1億5,000万円/前後賞各2,500万円  
2等:1,000万円 3等:100万円

発売期間: 9月29日(月)~10月17日(金)  
抽せん日: 10月22日(水)

財団法人全国市町村振興協会



この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。